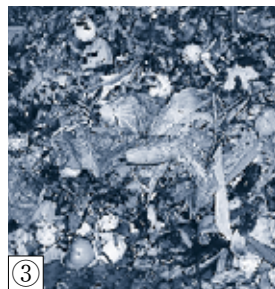


生ごみで花を咲かせよう！

皆さんは市内の家庭から年間にどのくらいのごみが排出されているかご存じでしょうか？

総量で49万トン。そのうち、3割程度が生ごみとして捨てられており、その減量が急務となっています。ところが、この邪魔者と思われている生ごみも発酵させると上質な堆肥となり、ごみの減量となるだけでなく、有効な資源として家庭や公共施設で再利用できるようになります。

今月号では「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」として、8月から実施した家庭の生ごみ分別回収・堆肥化及び家庭でできるダンボール箱による生ごみ堆肥化講習会の内容を紹介します。



- ①抗酸化バケツに溜めた生ごみを回収
- ②生ごみを堆肥にするには丁寧な分別が必要です。丁寧に分別した1週間分の生ごみがバケツ一杯になりました
- ③回収した40世帯分の生ごみ。1日1世帯当たりで換算すると500ℓ程度になりました。ここから数カ月発酵させて堆肥にします
- ④堆肥化途中の生ごみ。発酵熱で中心部では60度を超えます
- ⑤できた堆肥を植樹用に入れていきます。来年、きれいな花が咲くといいですね

循環型社会を目指して

意識調査結果

参加世帯に意識調査を行いました。こちらでは結果の一部をご紹介します。

生ごみの分別は97%が苦にならない

「手間はほとんどなく簡単にできた」「手間は多少あったが、慣れたら苦にならなかった」を合わせると97%になりました。

腐敗や臭いは7割以上が我慢できる

「腐敗も臭いも気にならなかった」が4割、「臭いは少し気になったが我慢できる程度だった」が3割程度を占め、合わせると7割以上が我慢できるとなりました。

86%が燃やせるごみの減量を実感

燃やせるごみは「1/3程度減った」「半分程度減った」などを合わせると、減量を実感した世帯は86%。

9割以上が公共スペースでの生ごみ堆肥活用に肯定的

「生ごみを道路植樹用などの公共用堆肥として再利用することは良いこと」と91%が回答。

この事業は、各世帯で生ごみを分別してもらい、その生ごみを回収・堆肥化。さらにこの堆肥を同町内会に還元し、道路の植樹用肥料として活用されています。

この事業は、『区の個性あふれる提案事業』で、生ごみの分別や資源として再利用することについての意識調査などを行うことを目的に、環境に対する取り組みに意欲的な新発寒の新生町内会（松田初夫会長）をモデル地区とし、そのうちの40世帯と協働で「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」を行いました。

手稲区ではこれらの取り組みのほか、ダンボール箱を利用した生ごみの堆肥化方法の講習会を開催し、普及・啓発活動も積極的に行いました。

次ページでは、区民センターで開催したダンボール箱を利用した生ごみの堆肥化講習会の内容をご紹介します。

手稲区では「区の個性あふれる提案事業」で、生ごみの分別や資源として再利用することについての意識調査などを行うことを目的に、環境に対する取り組みに意欲的な新発寒の新生町内会（松田初夫会長）をモデル地区とし、そのうちの40世帯と協働で「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」を行いました。

この取り組みの意識調査結果では、生ごみの分別作業などに抵抗感のある方は少なく、多くの方がごみの減量を実感されていました。また、公共の場での生ごみ堆肥活用には大部分の方が肯定的でした。

用しようというものです。この取り組みの意識調査結果では、生ごみの分別作業などに抵抗感のある方は少なく、多くの方がごみの減量を実感されていました。また、公共の場での生ごみ堆肥活用には大部分の方が肯定的でした。